

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900110		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホーム高梁2号館		
所在地	高梁市落合町阿部2029-1		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390900110-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成30年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様が憩うリビングには、中庭や周りの様子見える大きな窓があります。日当たりがよく利用者様と育てている菜園の様子や周りの花や木々の姿に四季の移りかわりを感じる事ができます。近隣の方なども気軽に立ち寄って下さったり、地域の方々ともかかわりをもちつつゆったりとした環境のもと生活して頂けるように努めています。又、ホーム周辺や広い中庭へは自由に入出入り可能であり開放的に過ごしていただいております。利用者様個々に応じた支援ができる様、日々のコミュニケーションを通しその方のニーズに応じた対応ができるよう利用者様との時間を共有し一瞬一瞬を大切に支援させて頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員と利用者は信頼関係が結ばれている。入居時、利用者から「最期まで世話になります。」と言われる、その思いを受け入れて入居してもらった利用者もいる。配偶者を亡くし、子どもも居ない。職員はこの事業所が利用者の心の拠り所となり、生きる希望に繋がることを願って支援に努めている。関連事業所に入居していた利用者が、ハード面とソフト面から、この事業所で暮らした方が幸せと感じた時は、最期まで責任を持つ覚悟でこちらの事業所に移ってもらった利用者もいる。職員と利用者は互いに信頼し、親子以上に何でも言い合いながら、一緒に家事をしている。自宅で過ごすように、朝起きて居室を掃除し、食事を作り、好きな時間に入浴をしている。介護施設というより、一般の家庭に居るよう感じた一日だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	西・東ユニットの職員の目が届く所へ掲示し、理念を常に確認できるようにしている。又、理念を念頭に置き実践につながるよう意識して日々取り組んでいます。	入職時に理念を伝え、周知を図っている。理念に「楽しく過ごせるように」と掲げ、常に笑いの絶えない事業所を目指している。訪問当日も、職員と利用者が冗談を言いあうなど、笑い声が飛び交っていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ホームでの行事等への参加して頂いたりとそれ以外にも日頃から意識し交流を図っている。	事業所で実施した「もちつき大会」に近隣の人たちも参加し、餅をついたり、利用者と一緒に餅を丸めてくれたりする。豪雨の時、近所の人から事業所へ避難させて欲しいと連絡があり、受け入れた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では活かしていえるとはいえない。今後地域に向けて活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告等行い、情報交換や意見を聞きサービス向上に努力している。	事業所の取り組みを伝え、意見を聞いている。行事を実施する際は、アドバイスをくれ、しかも手伝いもしてくれるなど、大変協力的である。利用者とも顔なじみの関係となり、日頃から状況把握をしてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡をとり協力関係を築くよう努力している。	市とは、日頃から連携を図っている。今年、豪雨災害による断水となった。近隣にある給水所へ行くのに時間を要するため、市の計らいで事業所まで給水車が来てくれることとなった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を実地し、拘束に対する理解を深めマニュアルなど全職員再確認を行った。又日中施錠など行わず環境面・身体面での拘束につながらないように十分に注意しケアに努めている。	全ての扉は施錠していなかったが、夜間、利用者が黙って外へ出たことがあったため、家族に同意をもらい、少しの間、夜間帯のみ出口を施錠したこともある。利用者の帰宅願望が募った時は、一緒に外へ出て、話しをしながらその気持ちを汲む対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い日々の介護の中で自身のケアがご利用者にとってどう受け止められているか？常に念頭に置き虐待に該当する対応になっていないか心掛け意識して努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修など学ぶ機会があり各自学習もするが、それらを活用し支援までには繋がっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点などを尋ね、納得・同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望については面会時等にて話を伺いながら運営に反映させている	家族が訪問した時は、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努め、関係構築を図っている。家族から、「仕事が多忙で利用料を支払に行けない」と連絡があった時は、勤務先へ取りに行くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話をする場を設け、意見等反映されている。	管理者と職員は、日ごろからコミュニケーションを図り、何でも言える関係作りができています。管理者は職員の相談に乗りながら運営を任せ、やりがいを持って働ける環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績を把握し、反映されている。また職場環境や条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修や個々の能力を見極めながらトレーニングに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実際的には職員がギリギリの状態で行っているため交流までは出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずご利用者の思いやに必ずを汲み取るため日々の行動、性格把握だけでなくコミュニケーションを密に図り生活問題の根源を見極め寄り添った対応に心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いままでの本人(利用者)様の生活背景を伺い、ご家族様の現状・思いから導き出されるホームでのケア・本人とご家族様の繋がりを考えた対応を行った。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・他職種(医師・看護師)、職員と協力し、その時に必要であるかどうか見極め、話し合い、必要な方法があれば相談・実行した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者として考えず、まず目上の方として接している。その中でその人が本当に必要なケアのみ介護者として支援に努めることで相手との信頼関係を築いている。日々の関わりも一人だけに限らず個々の時間を必ず作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と対話時、日々の様子報告(本人の生活している際にみられる長所や継続して行えている様子)をし、家族の気持ちを察しつつ本人への目・関係・距離が遠くならないよう共に支えている気持ちで話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中であったり、地元の話や本人が思い返して話をされた時、寄り添って傾聴する。又、外出時など可能な時は自宅や周辺をドライブ帰省したりなど、家族とも協力し合い行えた。	事業所は、訪れやすい環境作りに努めているので、面会者は多い。子どもだけではなく、いとこや甥・姪など、色々な人たちが訪れてくれる。毎年、職員2人が付き添って自宅の寺へ行き、利用者には数珠を持ちながら拜んでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の様子や関係把握に努め、個人によって共同生活がより良い生活になるよう問題があれば職員同士情報交換し、解決に努めた。利用者個人の不満が他者との関わりがとれる環境になり解消する場面もみられた。又、日々募る思いに対しては傾聴・訴えを受け止めつつ消化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの事情でケア終了となっても、ご家族や本人と対話や関係を大切にしている。相談を受けた際は管理者へ報告し助言を求めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人より訴えがある場合はそれに応じた活動を検討・選択し、本人が困難な場合には日々の生活から汲み取れる、その人に応じた対応に努めている。	介護記録の書式を簡素化し、利用者の傍らに居る時間を増やした。一人ひとりの思いを尊重し、一緒に作業をしたくない人には、別の事をしてもらっている。事業所は、利用者が思っていることを気軽に言える環境なので、訪問当日も遠慮せず、職員に言いたい事を言っていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人に応じて得意なこと(今までやってこられたこと)・意向などを通じてホームで過ごすにあたり選択していただきつつ本人本位な暮らしを援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に関わり、本人より知る情報、職員同士での情報交換、毎日のバイタルサイン測定など、身体面・精神面の理解を深めるよう努めた。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、管理者・職員同士で問題について検討し、必要時はご家族へ相談し、それに基づいたケアプラン作成に努めている。	介護計画は、1年毎に見直しをしている。職員には、利用者の気になった変化を書き出してもらい、家族には、面会時に意向を聞き、作成時の参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じ、管理者・職員同士で問題について検討し、必要時はご家族へ相談し、それに基づいたケアプラン作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	形に囚われないよう、実際にやってみてどうかの姿勢を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々やご家族様との関係性を理解し、育みつつ利用者個々に応じた生活の支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診援助・同行対応を行っている。医師との連携を図り、本人の状態に応じ適切な対応ができるよう支援している。	職員が家族の代わりに通院援助をするなど、在宅時からのかかりつけ医の継続支援に努めている。市外の病院は、現地で家族と待ち合わせ、利用者の日頃の様子を医師へ直接伝えている。利用者が不調を感じ、自ら職員へ病院に連れて行って欲しいと伝え、対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時、個々の変化や気づきを報告し、対応相談や状態報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者報告、本人に代わり入院準備・情報共有(連携パス)・書類作成に努めた。入院される本人の気持ちへの配慮も行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の家族と必要に応じて今後についての話し合いを行いながら、家族の意向をふまえた上での事業としての方針など職員ともよく話し合いながら支援を行っている	終末期の対応は、家族、本人、職員の意向を確認したうえで検討をしている。現在は回復したが、今年2月に利用者が重度化し、終末期の対応をした。夜間勤務者が不安を感じないよう、管理者は何日か一緒に泊り込みをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル把握に努め、急変時対応、管理者への報告を密に行い、職員同士協力し対応を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害時、初めての場面ではあったが管理者・職員と臨機応変に対応し、地域職員と連携した。	現役の消防士が近くに住んでいて、何かあった場合はいつでも手伝いに来てくれる協力関係ができています。夜間想定で避難訓練を実施しているが、市の監査で利用者を誘導せず、検討会をしてはどうかと提案され実施する予定。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の訴えを傾聴しその方の思いを組み、同意ばかりでなく共感からの声掛けに努めている。	援助が必要な時は、本人の気持ちを考えさりげないケアに努めている。人生の先輩である利用者に対して、語調等が強くないよう気をつけている。何でもできないと決めつけず、進んでしてもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択した声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で動くのではなく、その日その日の本人のやりたいように動いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容は本人でされているが、髭ざりなど本人で困難な所は援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理補助を通じ、家庭と同じように出来るところは行ってもらっている。	利用者の楽しみである食事は、こだわりを持って作っている。地産地消を大切に、新鮮な旬の食材を取り入れている。献立はその都度利用者に食べたい物を聞き、足りない食材等があれば近所のスーパーへ買出しに行く。食事は利用者と一緒に作り、味見もしてもらっている。	日々利用者に聞きながら献立を決めているが、法人全体で栄養士の立てた献立に変更を検討している。旬の食材を使用しながら、利用者の食べたい物を作る今の状況の継続支援を希望する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量・好み・栄養バランス・色どり・疾患による配慮などを考え調理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより行う。義歯や磨き残し、困難な所は一部介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、変化に気づき、その方に応じた排泄物品を使用している。	本人の意思を尊重し、行きたい時にトイレへ行ってもらっている。パットを使用している利用者には、何回かに1回は確認させてもらっている。パットを確認されるのを嫌がる場合は、トイレトペーパーを交換するふりをしながら、さりげなく確認をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。便秘症の方へは、食事・水分・運動・内服薬など多方面よりアプローチしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が好きに時に好きなタイミングで入浴できるよう希望を伺いながら支援している。	入浴する日時を決めず、自由に入浴してもらっている。夕食後にゆっくり入浴する利用者もいる。豪雨災害により断水が2週間近く続いた時は、近くの介護施設で入浴させてもらった。また、自宅に帰って入浴する人もいた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動・休息のメリハリなど生活リズムをつけ夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。薬の変更時は職員同士で情報共有し、薬事情報を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を生かし、ホームでの役割を持って頂き、生活にハリを持って過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力、職員同士の協力を行い、本人の思いを汲み取り、自宅への帰省や外出も援助している。	玄関は施錠せず、自由に散歩に行ってもらっている。裏口から出て中庭のブランコへ乗る利用者もいる。近くのドラッグストアに出掛け、利用者の必要な物を自ら選んで購入してもらっている。今年は、市外に在る大型スーパーに行き、好きな物を購入し、会計も自分達でもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時にご家族へ依頼し本人に持参して頂いており、外出時に本人自身で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	介助により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって過ごしやすい、家庭的な空間作りに努めている。	廊下にオイルヒーターを置き、居室と廊下の寒暖差があまりないように気をつけている。人の出入りが多い玄関にも、入口付近にオイルヒーターを置いている。冬場は空気が乾燥しないよう、湯を常に沸騰させ湿度を保っている。この湯は、湯たんぽに利用される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好きなレイアウトにして頂いている。	居心地よく過ごしてもらえよう、家族と協力しながら自分らしい居室作りをしている。北向きの居室は、日が差し込みにくいので、窓に緩衝材を貼ったり、マットレスを置いたりなど、防寒対策に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の位置や皆で過ごす場所など利用者が使いやすいようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900110		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホーム高梁2号館		
所在地	高梁市落合町阿部2029-1		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390900110-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成30年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様が憩うリビングには、中庭や周りの様子見える大きな窓があります。日当たりがよく利用者様と育てている菜園の様子や周りの花や木々の姿に四季の移りかわりを感じる事ができます。近隣の方なども気軽に立ち寄って下さったりと、地域の方々ともかかわりをもちつつゆったりとした環境のもと生活して頂けるように努めています。又、ホーム周辺や広い中庭へは自由に入出入り可能であり開放的に過ごしていただいております。利用者様個々に応じた支援ができる様、日々のコミュニケーションを通しその方のニーズに応じた対応ができるよう利用者様との時間を共有し一瞬一瞬を大切に支援させて頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	西・東ユニットの職員の目が届く所へ掲示し、理念を常に確認できるようにしている。又、理念を念頭に置き実践につながるよう意識して日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ホームでの行事等への参加して頂いたりとそれ以外にも日頃から意識し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では活かしていえるとはいえない。今後地域に向けて活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告等行い、情報交換や意見を聞きサービス向上に努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡をとり協力関係を築くよう努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を実地し、拘束に対する理解を深めマニュアルなど全職員再確認を行った。又日中施錠など行わず環境面・身体面での拘束につながらないよう十分に注意しケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い日々の介護の中で自身のケアがご利用者にとってどう受け止められているか？常に念頭に置き虐待に該当する対応になっていないか心掛け意識して努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修など学ぶ機会があり各自学習もするが、それらを活用し支援までには繋がっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点などを尋ね、納得・同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望については面会時等にて話を伺いながら運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話をする場を設け、意見等反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績を把握し、反映されている。また職場環境や条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修や個々の能力を見極めながらトレーニングに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実際的には職員がギリギリの状態で行っているため交流までは出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずご利用者の思いやに必ずを汲み取るため日々の行動、性格把握だけでなくコミュニケーションを密に図り生活問題の根源を見極め寄り添った対応に心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いままでの本人(利用者)様の生活背景を伺い、ご家族様の現状・思いから導き出されるホームでのケア・本人とご家族様の繋がりを考えた対応を行った。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・他職種(医師・看護師)、職員と協力し、その時に必要であるかどうか見極め、話し合い、必要な方法があれば相談・実行した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者として考えず、まず目上の方として接している。その中でその人が本当に必要なケアのみ介護者として支援に努めることで相手との信頼関係を築いている。日々の関わりも一人だけに限らず個々の時間を必ず作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と対話時、日々の様子報告(本人の生活している際にみられる長所や継続して行っている様子)をし、家族の気持ちを察しつつ本人への目・関係・距離が遠くならないよう共に支えている気持ちで話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中であったり、地元の話や本人が思い返して話をされた時、寄り添って傾聴する。又、外出時など可能な時は自宅や周辺をドライブ帰省したりなど、家族とも協力し合い行えた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の様子や関係把握に努め、個人によって共同生活がより良い生活になるよう問題があれば職員同士情報交換し、解決に努めた。利用者個人の不満が他者との関わりがとれる環境になり解消する場面もみられた。又、日々募る思いに対しては傾聴・訴えを受け止めつつ消化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの事情でケア終了となっても、ご家族や本人と対話や関係を大切にしている。相談を受けた際は管理者へ報告し助言を求めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人より訴えがある場合はそれに応じた活動を検討・選択し、本人が困難な場合には日々の生活から汲み取れる、その人に応じた対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人に応じて得意なこと(今までやってこられたこと)・意向などを通じてホームで過ごすにあたり選択していただきつつ本人本位な暮らしを援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に関わり、本人より知る情報、職員同士での情報交換、毎日のバイタルサイン測定など、身体面・精神面の理解を深めるよう努めた。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、管理者・職員同士で問題について検討し、必要時はご家族へ相談し、それに基づいたケアプラン作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じ、管理者・職員同士で問題について検討し、必要時はご家族へ相談し、それに基づいたケアプラン作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	形に囚われないよう、実際にやってみてどうかの姿勢を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々やご家族様との関係性を理解し、育みつつ利用者個々に応じた生活の支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診援助・同行対応を行っている。医師との連携を図り、本人の状態に応じ適切な対応ができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時、個々の変化や気づきを報告し、対応相談や状態報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者報告、本人に代わり入院準備・情報共有(連携パス)・書類作成に努めた。入院される本人の気持ちへの配慮も行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の家族と必要に応じて今後についての話し合いを行いながら、家族の意向をふまえた上での事業としての方針など職員ともよく話し合いながら支援を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル把握に努め、急変時対応、管理者への報告を密にして行い、職員同士協力し対応を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害時、初めての場面ではあったが管理者・職員と臨機応変に対応し、地域職員と連携した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の訴えを傾聴しその方の思いを組み、同意ばかりでなく共感からの声掛けに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択した声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で動くのではなく、その日その日の本人のやりたいように動いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容は本人でされているが、髭ざりなど本人で困難な所は援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理補助を通じ、家庭と同じように出来るところは行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量・好み・栄養バランス・色どり・疾患による配慮などを考え調理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより行う。義歯や磨き残し、困難な所は一部介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、変化に気づき、その方に応じた排泄物品を使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。便秘症の方へは、食事・水分・運動・内服薬など多方面よりアプローチしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が好きな時に好きなタイミングで入浴できるよう希望を伺いながら支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動・休息のメリハリなど生活リズムをつけ夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。薬の変更時は職員同士で情報共有し、薬事情報を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を生かし、ホームでの役割を持って頂き、生活にハリを持って過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力、職員同士の協力を行い、本人の思いを汲み取り、自宅への帰省や外出も援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時にご家族へ依頼し本人に持参して頂いており、外出時に本人自身で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	介助により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって過ごしやすい、家庭的な空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好きなレイアウトにして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の位置や皆で過ごす場所など利用者が使いやすいようにしている。		